

日本経済新聞

2016年(平成28年)9月8日(木曜日)

有機EL照明を見て、触れて、買って——。山形県は7日、有機EL照明の常設販売窓口を山形市内に開設した。山形県の先端技術の一つ有機EL照明を県民の生活に取り入れてほしいと、県内企業が製造した9製品を販売するほか、映像などを通じて観光客にも訴える。同日、インターネットでの販売も始めた。

有機EL照明見て買って

山形県が常設販売窓口

地元企業製品をPR
がた観光情報センター」内だが、常設の販売窓口はなに設けた。行灯(あんどん) かった。

風照明、デスクライト、病院 有機EL照明は、1993年、山形大学工学部(米沢市)の城戸淳二教授が白インターネットでの販売色での発光に成功したのをは、山形県観光物産協会がきっかけに製品化された。運営するお土産通販サイト発光ダイオード(LED)「山形県の特産品」とって照明に続く次世代照明ときおきの山形」に掲載、販売れ、面全体で発光し薄型、を始めた。

自然光に近く影がでさなく山形県産業技術振興機構いなどの特徴があるが、低が首都圏の大手企業向け価格化が進むLED照明にに、東京・西新宿の高層ビルに、東京・西新宿の高層ビル内にショールームを設けていない。